

AAC2025 美術旅行レポート



AAC2025 最優秀賞

「緑の詩」

劉宇凡

広島市立大学大学院
芸術学部 造形芸術専攻

貴州美術旅行レポート

AAC2025 受賞 劉宇凡

2026年1月25日～2月7日

苗族（ミャオ族）は中国南西部の民族です。歴史的に文字を持たないが、豊かな芸術を生み出してきました。苗族の刺繍は、苗族の女性たちに代々受け継がれてきた伝統技法として、神話や歴史物語を衣服の刺繍として表現され、非常に独特な芸術形式です。

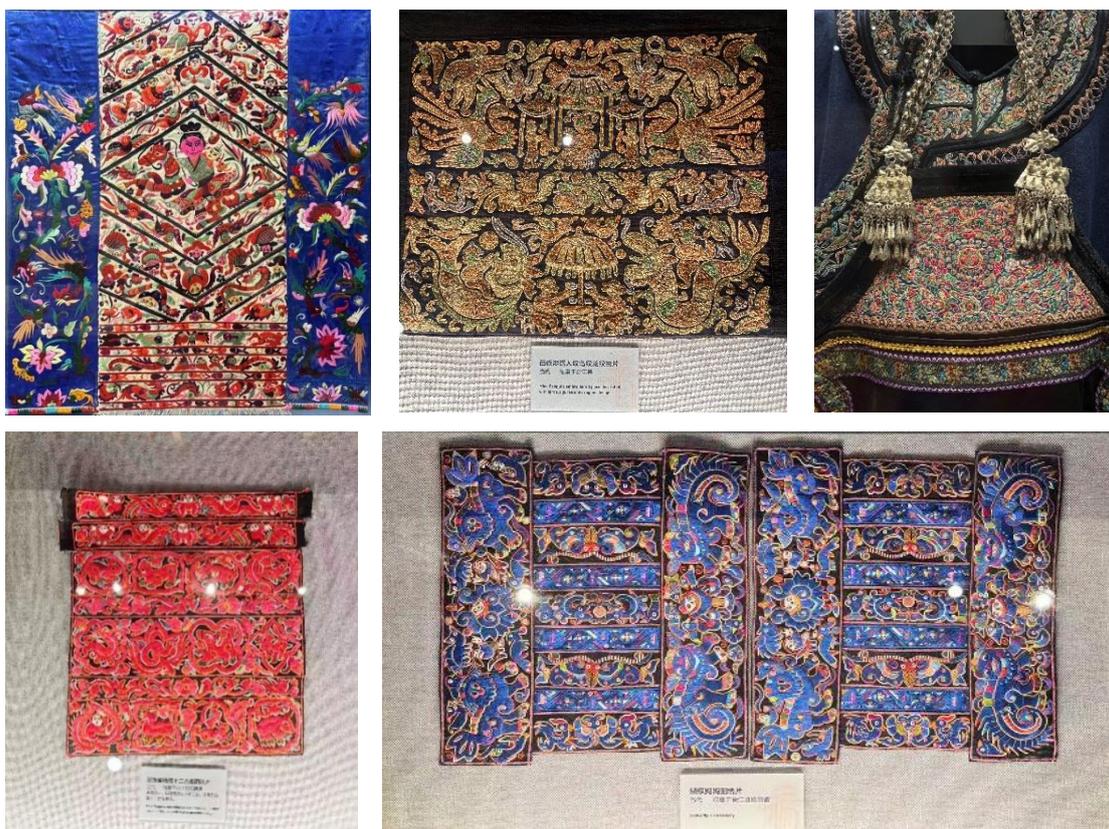
調査のために貴州省民族博物館、凱里「繡里淘」バザール、郎徳苗族の村を訪れました。貴州省は苗族の人口が最も多く、刺繍の伝統的な様式がよく残っています。中でも、「蝶の母」の神話は苗族の創世神話として、豊かな想像力と強い生命力に満ちており、その神話を反映した芸術作品に触れて、私は深く感銘を受けました。



苗族刺繍の主な素材は絹糸、綿糸などであり、その中でも絹糸が最も一般的です。苗族刺繍の材料の準備には、糸紡ぎ、染色、機織りなどの工程が含まれています。苗族刺繍の刺繍技法は豊富で多様であり、支族や用途によって用いられる刺繍技法は異なります。よく見られる刺繍技法は十種類以上あります。



こうした苗族の神話や伝説は、苗族刺繍の文様に豊かな創作素材を提供しています。『苗族古歌』には創世神話の物語が保存されています。太古の時代、楓の木は万物の母体であり、木の中から「蝶の母」が生まれ、梢から鵲宇鳥（せきうちょう）が生まれました。蝶の母は成長した後、水泡と「遊方」（求愛や交遊の意味と考えられます）し、12個の卵を産みました。これら12個の卵は鵲宇鳥に代わって孵化され、そこから龍、虎、水牛、蛇、ムカデ、雷公、そして姜央（きょうおう、姜央は苗族の始祖です）が誕生しました。この神話の中心的な観念は「万物同源」にあり、苗族の宇宙観と祖先崇拝を体現しています。



その中でも蝶文様は刺繍における主要なモチーフで、その意匠は鮮やかで印象的です。貴州の苗族刺繍における蝶文様の造形は写実と抽象に分けられ、色彩豊かで、その意匠は鮮烈です。

具体的には、蝶文様は大きく三種類に分けられます。

一つ目は正面蝶文様です。蝶が正面に広がった状態であり、頭部はしばしば人面や獣面として処理され、触角は唐草文様に変化し、羽は左右対称に広がり、羽の中には各種の小さな文様が詰め込まれています。

二つ目は側面蝶文様です。蝶が横を向いており、常に他の動物文様と組み合わせて出現します。

三つ目は抽象蝶文様です。蝶のイメージが対称的な曲線に抽象化され、文様の中に溶け込んでいます。

また、蝶の母が12個の卵を産んだ物語は、苗族刺繍において多様な視覚的表現を持っています。よく見られるものとして、卵形の文様が円形または楕円形で出現し、しばしば連続して配列され、周囲を動物文様が囲むものがあります。孵化のシーンは鵲宇鳥が卵を守る姿を表現し、卵の中には各種の動物の雛形がかすかに見えます。動物の兄弟の系譜は、

12 個の卵から誕生した龍、虎、水牛、蛇などの動物文様を蝶の母の周囲に対称的に配列し、創世の光景を構成しています。

苗族の工芸芸術である苗族刺繍は、文様において、「蝶の母」の神話を創作のテーマとし、蝶文様、12 個の卵文様、および関連する動物文様が神話の系譜を構成しています。苗族刺繍の文様は、抽象化や複合化などの造形方法に従い、構図と色彩において独特の魅力を形成しています。

文字記録を持たない苗族は、刺繍という視覚表現を通じて神話や歴史の記憶を伝承してきました。人々は同じ物語の断片を刺し続け、その図案は技術や個人の感性によって多様な変化を遂げます。具象的な図案から抽象的な形態、あるいは民衆による素朴な作風に至るまで、そのすべてが力強く、大胆な魅力を放っています。

苗族の芸術に触れ、特に、物語の表現には、学ぶべきことが多くあります。今後は、より多くの少数民族の芸術に直接触れる機会を増やし、そこで出会う大胆な色彩や独特な造形を自分の制作活動に生かしていきたいです。

